

## 世界連邦運動再生運動を飛躍的に発展させるために

—放射線簡易測定器を用いた放射能汚染調査を通して核兵器廃絶を—

天谷和夫

- 世界連邦運動の発足の動機は、原爆の投下を知ったアメリカの知識人の代表である当時のシカゴ大学の総長であったロバート・ハッチンス博士が中心になってこの大量破壊兵器を絶対に使わせないために原子力を国際管理し、また核兵器を使う可能性のある戦争を起こさせない政治体制として、国の主権の一部を委譲する高次の組織としての世界連邦政府が必要と考えたからです。
- 東日本大震災と同時に発生した東電福島第一原発事故は、原子力の平和利用である原発であっても国際管理を必要としていることを示しています。軍事利用の核兵器を国際管理し、これを禁止し、廃絶することは当然です。
- 原発事故で関心の高まっている環境放射能汚染問題は、市民の使える安価な放射線簡易測定器を普及し、環境を測定し健康を守る運動を展開し、同時に核兵器の廃絶を実現する絶好の機会です。
- WFMの主要な目的である核兵器の廃絶する実践活動を進めながら、再生の運動を発展させることができます。
- 今回抱水クロラルを用いる簡易化学線量計を改良して学校を中心に生徒の個人外部被曝を安価に継続して測定することが出来るようになりました。
- この測定に並行して原発周辺の住民の放射線被曝の疫学調査を進めます。
- この運動を国連を通じてまたNGOを通して諸外国に広めます。
- 核保有国は核施設の周辺の調査をあわせて行います。
- そして核兵器の廃絶を核保有国の指導者に訴えます。被爆者の生きている間に核兵器の廃絶を実現することを目指して。

2022年7月23日

天谷和夫